

新年を迎えるにあたり

深志の大神様の御神威を仰ぎ

皆様方の家運隆昌とお祈り申し上げます

〓 氏神はわが家わが町の守り神〓

新しい御神札をお迎えし、

神様に見守られて心安らぐ日々の暮らしを

◆神宮大麻（お伊勢様・年神様）

天照大神様をお祭りされる伊勢の
皇大神宮の御神札で日本の総守り神様

◆深志神社大麻

深志神社の御神札で
松本南深志48ヶ町の守り神様

家内安全の御神札を、各町会氏子総代を通じて皆様のご家庭へお頒ち致しております。また、授与所ですいつでもお受け戴けます。なお、簡易神棚もお頒ちしています。

― お正月のご案内 ―

◆祭典のご案内

大晦日 午後11時30分より除夜祭
正月 午前0時より歳旦祭

◆二年参り、初詣のご案内

大晦日から元旦にかけてお参りする「二年参り」。一年の感謝を含め新年を清々しいお気持ちで、午前0時に鳴りわたる大太鼓の響きとともに迎えください。

◆新年祈願祭のご案内

元旦より新年諸祈願祭をご奉仕いたします。
（団体の祈願）社業繁栄・商売繁昌・社内安全・交通安全等（家庭・個人の祈願）家内安全・厄除祈願・合格祈願等
特に受験合格祈願は御祭神の天神様、菅原道真公の御神威があらたかです。
なお、団体での祈願は予約いただいておりますので社務所までお問い合わせください。

◆新年授与品のご案内

御神札（伊勢神宮・深志神社・家内安全他）、御守（交通安全守・合格守・勝守・金運招福守他）、新春縁起物（熊手・破魔矢・福俵・ダルマ他）やおみくじ（神教みくじ・三角みくじ・花咲みくじ・恋みくじ・男・女みくじ）等を授与致します。なお縁起物は大晦日午後10時より授与します。

また大晦日午後11時より境内にて篝火を焚き、古御神札等をお焚きあげします。年内に受けられた御守や御神札、縁起物等を感謝の気持ちを込めてお納めください。

・自動車でのご参拝
境内は大変込み合いますので、できるだけ自動車でのご参拝はご遠慮ください。

― 節分のご案内 ―

2月3日恒例の節分祭を斎行します。
年男・年女での奉仕や、豆まきでの厄祓いを希望の方は各町会氏子総代にお問い合わせいただくか、社務所へ1月30日までにお申し込みください。

人気ゲーム機や液晶テレビなどの豪華賞品、福銭、福豆等の福を受けに来る方の参加はご自由です。子供専用コーナーありますのでご家族皆様安心してご参りいただけます。



梅鉢紋 天満宮御神紋



平成24年 元旦 社頭



社頭のおまじりの様子



拝殿での参拝



節分祭 豆炒り式



節分祭 豆まき

ふかし 深志神社社報 第15号

発行日 平成24年11月25日

発行所 深志神社社務所
〒390-0815
松本市深志3丁目7番43号
電話 0263-32-1214
FAX 0263-32-5908
http://www.fukashi-tenjin.or.jp

印刷 (株)日本広告

(6,000部)

【還暦】昭和28年生(男女とも)

― 梅風閣のご案内 ―

当神社併設の梅風閣にて忘年会・新年会を承っています。会社の皆様や御家族とは是非ご利用ください。

お問い合わせは0263-32-16310

ホームページ

http://baifukaku.jp/

◆平成24年厄年表(数え年)

【平成25年厄年表(数え年)】			
	男性	女性	
	25歳の厄	42歳の厄	33歳の厄
前厄	平成2年生	昭和48年生	昭和57年生
本厄	平成元年生	昭和47年生	昭和56年生
後厄	昭和63年生	昭和46年生	昭和55年生



ふかし

深志神社 天満宮は
平成26年夏に御鎮座400年を迎えます
深志神社社報 第15号

深志神社は信州松本城下
南深志の地四十八ヶ町
氏子の守り神さまです

平成24年秋号

【深志神社】年間祭事一覧
一月一日 歳旦祭
一月八日 元始祭
一月十日前後 あめ市
二月三日 豆炒り・節分祭
二月十二日 建国祭
三月二十五日 祈年祭
三月下旬 懸子祭
五月二十五日 棚公祭
六月三十日 大祓式
七月十四・十五日 八坂祭
七月二十四・二十五日 例祭(天神祭)
九月八・九日 宮村祭
九月二十六日 愛染祭
十二月七日 金山祭
十二月十八日 恵比寿祭
十二月二十日 恵比寿祭
十二月二十五日 新嘗祭
十二月二十五日 神宮神社 大祓布始祭
十一月下旬 松尾祭
十二月三十日 大祓式
十二月三十一日 除夜祭
●各月二十五日 月次祭
●毎朝 日供祭



本町4丁目
現在修復中の「神成皇后」人形



中町3丁目
「神主さん」人形



本町5丁目
新しい「柿本人麻呂」人形

■舞台人形について

今年は本町5丁目舞台と中町3丁目舞台が改修され、無事に竣工しました。2台とも天神まつりでお披露目され、10月の神道まつりでも大名町に展示されました。

この2台は共に舞台人形を積載しています。本町5丁目は「柿本人麻呂」像。この人形については前回も紹介しましたが、たい

松本深志舞台保存会だより《12》

**松本の神社で
今季の必勝祈願**
反町康治監督と選手31人らが29日、松本市の深志神社で今季の必勝を祈願した。神妙な面持ちで神事に臨み、松本山雅として初めて挑むJリーグの舞台で



今季の勝利を祈願する
山雅の選手やスタッフ

の勝利を願った。
大月弘土社長や加藤善之ゼネラルマネジャーらも参列し、厳かな雰囲気の中で選手と一緒に今季の健闘を誓った。反町監督は「一日を充実させ、良い結果が残せるように祈った」と話した。

(1月30日号)



舞台華やかに

深志「天神まつり」始まる

松本市深志3の深志神社の天神まつりが、24日、2日間の日程で周辺地域一帯で始まった。各町会の子供から大人までが参加し、市重要有形民俗文化財の「舞台」と呼ばれる山車16台を曳行している。高さ約5メートルの舞台を大人たちが各町会の地域から曳いて境内へ向かい、子供たちは舞台

集めた。源池小5年の山下直哉君（10）は「舞台がカーブで曲がる時は怖かったけれど、太鼓を上手にたたけて楽しかった」と話していた。
25日は午後3時半から5時ごろまで舞台を曳き、通行人の注目を（石尾 出

(7月25日号)

平成24年

深志神社の祭事

～ 市民タイムスの記事から ～

この記事切抜は
市民タイムス社の許可を得て掲載しています。
同社の御高配に御礼申し上げます。

健康願いのぼり奉納

松本市内神社で「八坂さま」



息を病無
祈願する子ら

子供たちの無病息災を願う「八坂さま」の祭りが14日、松本市内の神

社で行われた。深志3の深志神社では5色ののぼりを持った家族連れが次々と訪れ、子供

0年ほど前、松本地方に疫病が大流行したことがきっかけという。成長の早いコソを使ったのぼりを奉納する行事で、子供たちの守り神として知られ、深志神社のほかにも岡宮神社や塩釜神社でも行われている。深志神社の境内には出店も並びにぎやかな雰囲気です。祭りが行われた。長女の愛佳さん（7）と一緒に、1年間の平穏を祈った小松晴美さん（35）＝松本市神田1＝は「子供が小学生のうちはずっと続けたい」と話していた。（小口浩一）

(7月15日号)



大きな炎を上げてたき上げられる
絵馬

(5月8日号)

新1年生 決意を胸に

深志神社 入学祭

これから小学校に入学する子供たちの健やかな成長を願う入学祭が29日、松本市深志3の深志神社（遠藤久芳宮司）で行われた。氏子47町会のうち13町会の子供ら19人が、学業の神様・菅原道真公にお参りした。神事の後、子供たちは「元気に学校に通えますように」「一つはな1年生になりたい」と話していた。（小岩井真之）



神前に玉串をささげる子供たち

た子供たちは、本殿の神前に真新しいランドセルを並べてお払いをしてもらったほか、氏子総代に続いて一人一人玉串を奉納した。その後、遠藤宮司に続いて「元気に学校に行きます。お友達と仲良くします。一生懸命勉強します。どうか神様お守りください」と声を合せていた。

(3月30日号)

ご存知のとおり深志神社の舞台は16台。約半数の舞台が人形を載せていることになります。現在、本町4丁目舞台が人形「神功皇后」と共に修復中です。この人形も江戸中期の作で、存在感のある実に見事な人形です。修復竣工が待たれます。

■『はんだ山車まつり』

10月6日、舞台保存会では本年度の特別事業として、愛知県半田市の『はんだ山車まつり』視察ツアーを行いました。松本市のバスを使い、会員ほか28名で行って参りました。

『はんだ山車まつり』は、5年に一度、秋に行われる半田市の「大イベント」です。市内31台の山車が一堂に集い、その豪壮な山車を展示し、曳き回し、堵列させて、半田の山車の素晴らしさをアピールします。



「はんだ山車まつり」メイン会場

山車のスケールや数もさることながら人出が凄まじく、主催者発表によれば、今回は2日間（10月6、7日）で53万人とのこと。半田市の人口は12万弱ですから、人口の約4.5倍の人が出たことになりました。とにかく大変な人と熱気でした。

半田の山車は知多型と呼ばれる独特の形態で、正面から見ると2段に重なる唐破風屋根の宮形と、側面と後方を飾る赤い大幕や追ひ幕が特徴です。

また彫刻が多く、しかもその質が高く、実に見応えがあります。立川和四郎が山車の制作に手を染めたのは半田亀崎が最初で、以来、半田の山車は、漆塗りや鋳金具などの装飾を省いてまで彫刻に熱を入れました。祇園、高山、秩父など全国に有名な山車



半田亀崎地区の曳回し風景

山車彫刻等の詳細につきましては、深志神社ホームページの「新着情報」 「舞台保存会だより57」をご覧ください。

天満宮御鎮座四百年祭と記念事業

趣意書

【ご奉賛のお願い】

当深志神社では、来る平成二十六年に天満宮・鎮座四百年を迎え、七月に大祭を斎行し、あわせて記念事業を計画しております。つきましては、その趣意書を掲げますので、なにとぞ皆様方よりの心厚きご支援・ご奉賛を賜りたく、お願い申し上げます。

当深志神社は、信州松本城下南深志の地四十八ヶ町の守り神さまとして「深志の天神さま」と、親しみと敬いをこめて称され、氏子・崇敬者の方々から篤く敬われております。さて、当社に天満宮をお祭り申し上げてから来たる平成二十六年（二〇一四）には、鎮座四百年という記念すべき年を迎えます。

当社のご由緒は、はじめに宮村宮（諏訪明神）が信濃国守護小笠原貞宗公により暦応二年（三三九）九月九日にお祭りされました。のち、鎌田の地に小笠原長基公が京都の北野天満宮から応永九年（四〇二）に勧請されていた天満宮を、さらに松本城主小笠原秀政公が慶長十九年（一六四）八月二十五日、宮村宮の隣に分霊をお迎えし、並び祭られました。

それよりのち、「学問の神様・天神さま」として歴代藩主・藩士をはじめ松本城下町町方の人々から広く仰がれ、篤い信頼と祈り・願い、そして崇敬のまごころが寄せられ、また地域・文化の発展に寄与してまいりました。

ご高承のように当社では平成十四年、氏子・崇敬者の皆様方の格別のご奉賛を賜り、ご祭神菅原道真公御正忌一千百年大祭と記念事業が盛大に斎行され、ご本殿以下の諸社殿が全面的に改修整備一新され、以来、ご社頭の益々のご隆昌をみておりますことはまことに有難く、厚く御礼申し上げます。ご祭神菅原道真公御正忌一千百年大祭と記念事業が盛大に斎行され、ご本殿以下の諸社殿が全面的に改修整備一新され、以来、ご社頭の益々のご隆昌をみておりますことはまことに有難く、厚く御礼申し上げます。

それよりそれほど歳を経ない時期であり、加えて昨年には三月に東日本大震災、六月には松本地方の地震被災という社会情勢やまた地域経済の状況を鑑みますと甚だ厳しい現況で、まことに心苦しい次第ではありますが、当社におきましては、この天満宮御鎮座四百年という記念すべき時に際会し、今に相応しい奉仕の誠を捧げて広大無辺な天神信仰をさらに発揚し、そのご神徳が次代に継承されるよう尽力したいと乞い願っております。

つきましては、神域・境内整備事業と神徳宣揚事業を主とする記念事業を、左記の通りの要項で計画いたしております。

氏子と崇敬者の皆様方には、この度の趣旨と意義にご理解あるご賛同を賜りまして、甚だご無理なお願ひにて誠に恐縮に存じますが、氏神さまのご神徳と天神信仰の愈々の高揚、また地域文化の発展の為に、何卒格段のご奉賛を賜りたく幾重にも懇願申し上げます。

天満宮御鎮座四百年祭 記念事業 要項

一、神域・境内整備事業	参道石畳・敷石改修、神苑・樹木整備、駐車場整備等	金 三千二百五十万円
一、神徳宣揚事業	菅原道真公童児像建立・神社誌刊行等	金 八百万円
一、その他	祭典・記念行事・諸費等	金 九百五十万円
計		金 五千万円

◆ 奉賛金募財目標額	内訳	氏子奉賛目標額	金 一千五百万円
		特別崇敬者奉賛目標額	金 八百万円
		神社関係者奉賛金目標額	金 一千三百五十万円
		その他 神社拠出金等	金 三千六百五十万円
			金 一千三百五十万円
計			金 五千万円

※お問い合わせは下記社務所までお願いいたします。

深志神社社務所
〒390-0815
松本市深志3丁目7番43号
電話 0263-32-1214
FAX 0263-32-5908
<http://www.fukashi-tenjin.or.jp>

